

◆個別大学の大学入学者選抜改革を促すため、以下のような基本的方向に沿って今後検討を進めてはどうか。

1. ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ策定されるアドミッション・ポリシーに基づく多面的・総合的な入学者選抜への改善

○ 各大学の個別選抜の在り方を、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ策定されるアドミッション・ポリシーに基づき、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するものに改善することが必要。

※ アドミッション・ポリシーを、三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の一環として策定・公表することについて、中教審での議論を経て平成27年度中に省令改正を行うとともに、三つのポリシーに関するガイドラインを策定予定。

また、認証評価制度についても、三つのポリシーに基づく各大学の教育に関する内部質保証の取組状況についての評価を充実する方向で改善することについて、現在、中央教育審議会大学教育部会で検討中。

※ 昨今、各大学において、入学者選抜改革の取組が始まりつつあり、例えば国立大学協会においては、「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」を策定（平成27年9月）し、この中で、多面的・総合的な評価を含む入試改革を推進するとともに、平成33年度までに、推薦・AO入試、国際バカロレア入試等を入学定員の3割を目標とすることが公表されたところ。（参考資料1）

2. 個別選抜改革を推進するために求められる方策

(1) 大学入学者選抜の実施に係る新たなルールについて

○ 現行の大学入学者選抜のルールに関しては、国公立大学や高等学校の関係者等による「大学入学者選抜方法の改善に関する協議」を踏まえて「大学入学者選抜実施要項」を決定し、毎年度、文部科学省高等教育局長から各大学に通知。（参考資料2）

○ 今回の高大接続改革の趣旨を踏まえ、大学入学者選抜実施要項に定める「新たなルール」について、以下のような方向で検討してはどうか。

<現状と課題>

区分	主な選抜方法と課題	時期	学力検査の時期
AO入試	(学力検査) + 書類審査 + 面接 *大学によっては「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」が十分に評価されていないとの指摘	8月～	〔実施する場合〕 2月～
推薦入試	(学力検査) + 調査書 + 推薦書 *大学によっては「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」が十分に評価されていないとの指摘	11月～	〔実施する場合〕 2月～
一般入試	学力検査 + 調査書(+その他) *「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価が課題との指摘	試験期日に応じて設定	2月～

<改善の方向性>

★今後とも、各大学において、それぞれのディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ策定されるアドミッション・ポリシーに基づき、どのような評価方法を採用し、どのような比重を置いて評価を行うかを決定

★その際、全ての入学者選抜について、学力の3要素を多面的・総合的に評価するものへ改善

学力の3要素

- ① 知識・技能
- ② 思考力・判断力・表現力
- ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

## < 「大学入学者選抜実施要項」で改善すべき具体的事項 >

- ① 「AO入試」「推薦入試」「一般入試」の在り方の見直し
- ② 各選抜の特性を生かしつつ、「学力の3要素」を適切に把握するための取組の促進
- ③ 選抜の実施時期に関するルールづくり

### ① 「AO入試」「推薦入試」「一般入試」の在り方の見直し

○ 現行の大学入学者選抜実施要項では、大学入学者選抜が「AO入試」「推薦入試」「一般入試」に区分され、それぞれについての定義や要件が示されている。

○ その中で、各区分の選抜については、

ア 一部のAO入試や推薦入試では、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」を問わない性格のものとして受け止められ、本来の趣旨・目的に沿ったものとなっていない面があるため、これらの評価を適切に行うことにより、入学後の大学教育に円滑につなげること

イ 一部の一般入試では、知識中心の性格のものとして受け止められ、知識の暗記・再生の評価に偏りがちで、その結果の点数で選抜するものから転換し切れていない面があるため、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価をはじめ、一人一人の能力や経験を多面的・総合的に評価するものに改革すること

などの取組を進める必要がある。(参考資料3)

○ このことを踏まえ、各大学が上記の「改善の方向性」を踏まえ、バランスよく、よりきめ細やかな入学者選抜を行っていくことができるよう、大学入学者選抜実施要項における現行の「AO入試」「推薦入試」「一般入試」の在り方を見直し、新たなルールを構築することが必要ではないか。

○ その際、各大学において、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ策定されるアドミッション・ポリシーに基づき学力の3要素を適切に評価する方法で、多様な入学者を受け入れるための入学者選抜方法の多元化の取組が進められることが重要。

### ② 各選抜の特性を生かしつつ、「学力の3要素」を適切に把握するための取組の促進

(大学入学者選抜全体について)

○ 「学力の3要素」に関し、入学希望者にどのような能力を求めるのか、それをどのような方法で評価するのかを明確化したアドミッション・ポリシーと具体的な評価方法との関係について、また、様々な評価方法をどのような比重で活用するのかなどについて、各大学が責任持って説明できるようにすることが必要。

(評価方法として考えられるものの例) (「中間まとめ」より)

- ・ 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の結果
- ・ 自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法
- ・ 調査書
- ・ 活動報告書(個人の多様な活動・ボランティア・部活動・各種団体活動等)
- ・ 各種大会や顕彰等の記録、資格・検定試験の結果
- ・ 推薦書等
- ・ エッセイ、大学入学希望理由書、学修計画書
- ・ 面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション
- ・ その他(例えば、総合的な学習の時間などにおける生徒の探究的な学習の成果等に関する資料など)

- その際、大学入学前に取り組んできた学習や活動の履歴や、大学における学修への意志や意欲等をより適切に評価するため、「調査書」の在り方を見直すとともに、提出書類のより積極的な活用を促すことも必要ではないか。

※ 調査書や提出書類の在り方等の改善については、「多面的な評価検討WG」の議論のまとめ参照。

(特に現行の「AO入試」「推薦入試」について指摘されている課題の改善)

- 現行のAO入試、推薦入試については、現行の大学入学者選抜実施要項において、「知識・技能の修得状況に過度に重点を置いた選抜基準とせず」(AO入試)、「原則として学力検査を免除し」(推薦入試)といった記載がなされているが、新たなルールにおいては、こうした記載は削除してはどうか。
- また、具体的な教科・科目の履修を前提としない、例えば、小論文やプレゼンテーション等の形式で行われる検査については、2月1日より前でも実施可能であることを明確化してはどうか。
- さらに、「推薦書」を求める場合において、例えば、推薦書の中で本人の学習歴や活動歴を踏まえた学力の3要素に関する評価を記載することを必須とするなど、提出書類の在り方を改善することが必要ではないか。

(特に現行の「一般入試」について指摘されている課題の改善)

- 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」をより適切に評価するため、「調査書」や「高等学校までの学習や活動の履歴」、「学修計画書」などの資料を積極的に活用する方策について検討すべきではないか。
- また、現状において、大学によっては、
  - ・ 知識に偏重した選択式問題が中心で記述式問題を実施していない場合もあること
  - ・ 記述式を実施している場合であっても、必ずしも入学希望者の統合的な思考力や表現力等を評価するような出題となっていないケースも見受けられることなどを踏まえ、各大学において、出題の実態に関するより詳細な課題の分析を行いつつ、作問の改善を図り、解答の自由度の高い記述式や小論文等の導入・充実を図るべきではないか。

### ③選抜の実施時期に関するルールづくり

- 「新たなルール」においても、選抜の実施時期については、高等学校教育への影響等を考慮するとともに、円滑な選抜の実施が確保できるよう、一定の基準が必要。

例えば、

- ・ 個別面接を含む選抜 . . . . . 8月～
- ・ 校長等の推薦書の提出を含む選抜 . . . . . 11月～
- ・ 各教科・科目に係る「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価するテスト . . . . . 2月～

のように、採用する具体的な評価方法ごとに実施基準日を設けることなどが考えられるのではないか。

その際、選抜のいたずらな早期化や複雑化を招かないようにするための方策についても検討することが必要。

- ◎ 以上の論点も含め、新たなルールについては、本会議の「最終報告」で示す基本的な方向を踏まえ、また、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」に係る検討も見据えつつ、原則として平成32年度に実施される大学入学者選抜から適用することを念頭に、今後、国公立大学や高等学校の関係者等による「大学入学者選抜方法の改善に関する協議」の場においてより具体的な在り方を検討することとしてはどうか。

<別紙1参照>

## (2) 大学入学前の多様な学習や活動の評価とそれを踏まえた大学教育の改善について

※「多面的な評価検討WG」の議論のまとめを参照

## (3) 個別選抜改革を推進するための支援について

- 各大学において、アドミッション・オフィスの整備・強化やアドミッション・オフィサーなど多面的・総合的評価による入学者選抜を支える専門人材の職務の確立・育成・配置等に取り組むことが必要であり、国が効果的な財政支援等を行うことにより、入学者選抜改革を促すことが必要。
- さらに、国は、各大学の入学者選抜改革における課題を分析した上で、次期学習指導要領改訂の方向性等にも留意しつつ、「思考力・判断力・表現力」や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」をより適切に評価する評価手法など、今後特に重要と考えられるテーマに関する調査研究に取り組むことが必要。

<別紙2参照>



## 【参考】現行「大学入学者選抜実施要項」におけるAO入試、推薦入試、一般入試の区分について

### ○ AO入試

#### (概要)

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学修に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法。

この方法による場合は、以下の点に留意する。

- ① 入学志願者自らの意思で出願する公募制。
- ② 知識・技能の修得状況に過度に重点を置いた選抜基準としない。
- ③ 大学教育を受けるために必要な基礎学力の状況を把握するため、以下のいずれかを用いることが必要。
  - ア 各大学が実施する検査（筆記、実技、口頭試問等）の成績
  - イ 大学入試センター試験の成績
  - ウ 資格・検定試験等の成績
  - エ 高等学校の教科の評定平均値
- ④ ③ア～ウを行う場合にあっては、③エと組み合わせるなど調査書を積極的に活用することが望ましい。

#### (時期)

- ・ 出願期間は8月1日～。
- ・ 学力検査を行う場合の試験期日は2月1日～

### ○ 推薦入試

#### (概要)

出身高等学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定する入試方法。

この方法による場合は、以下の点に留意する。

- ① 高等学校の教科の評定平均値を出願要件（出願の目安）や合否判定に用い、その旨を募集要項に明記する。
  - ② 推薦書・調査書だけでは、入学志願者の能力・適性等の判定が困難な場合には、AO入試の③ア～ウの措置の少なくとも一つを講ずることが望ましい。
- ※募集人員は、学部等募集単位ごとの入学定員の5割を超えない範囲で定める。

#### (時期)

- ・ 出願期間は11月1日～。
- ・ 学力検査を行う場合の試験期日は2月1日～

### ○ 一般入試

#### (概要)

調査書の内容、学力検査、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーションその他の能力・適性等に関する検査、活動報告書、大学入学希望理由書及び学修計画書、資格・検定試験等の成績、その他大学が適当と認める資料により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する入試方法。

#### (時期)

- ・ 試験期日は2月1日～4月15日

## 【見直し案】

H27年度

H28年度

H29年度

H30年度

H31年度

H32年度

H33年度

〈高大接続システム改革会議で検討〉

・新テストの設計に関する検討  
・3つのポリシーのガイドラインの作成

・入試区分の見直しの方向性の提示

・新テストの実施に係る実証的・専門的検討

・入試区分の見直しの具体的内容について、高校・大学関係者による協議

新テストの実施方針(H29年度初頭)

区分の見直しに係る予告通知(H29年度初頭)

各大学で検討

各大学で予告・公表(H30年度初頭)

各大学で実施に向けた準備

H33年度大学入学者選抜実施要項  
(H32年5月)

大学入学希望者学力評価テスト  
(仮称)実施

新しいルールで実施

各大学の個別選抜の在り方は、大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の在り方と大きく関わるため、「新たなルール」の検討・実施については、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の検討・実施と対応したスケジュールで行うことが適当。

【参考】「2年程度前予告」の取扱い

○大学入学者選抜実施要項(抜粋)

第7 学力検査実施教科・科目、試験方法等の決定・発表

3 個別学力検査及び大学入試センター試験において課す教科・科目の変更等が入学志願者の準備に大きな影響を及ぼす場合には、2年程度前には予告・公表する。なお、その他の変更についても、入学志願者保護の観点から可能な限り早期の周知に努める。

# 高大接続改革の推進

別紙2

平成28年度予算額(案) 50.5億円

(関連予算を含む)

グローバル化の進展や生産年齢人口の急減など、社会の変化

新しい時代に必要となる資質・能力

厳しい時代を乗り越え、新たな価値を創造していくためには、知識量だけでなく「真の学ぶ力」(※)が必要

※「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の学力の三要素から構成される力

多様な背景を持つ子供たち一人一人が、それぞれの夢や目標の実現に向けて学び努力した積み重ねを、しっかりと受け止めて評価し、社会で花開かせる

学力の三要素を多面的・総合的に評価する大学入学者選抜

高大接続改革

主体的・協働的な学びなどを通じて「真の学ぶ力」を育成する高等学校教育

高等学校までで培った力を更に向上させ、社会へ送り出す大学教育

大学教育改革

入口から出口まで質保証を伴った大学教育の実現

## ● 大学教育再生加速プログラム(AP)「高大接続改革推進事業」:15億円【拡充】

高等学校や社会との円滑な接続のもと、3つのポリシー(「アドミッション・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」)に基づき、入口から出口まで質保証の伴った大学教育を実現するため、各継続テーマにおける取組の強化を図るほか、新規テーマとして、卒業段階でどれだけの力を身に付けたのかを客観的に評価する仕組みやその成果をより目に見える形で社会的に提示するための効果的な手法等を開発し、先導的なモデルとなる取組を支援する。

大学入学者選抜改革

先進的評価手法の共同開発

## ● 大学入学者選抜改革推進委託事業:3億円【新規】

大学入学者選抜における「思考力等」や「主体性等」の評価の推進に向け、大学入学者選抜改革を進める上での課題についての調査・分析と、「思考力等」や「主体性等」をより適切に評価する新たな評価手法の調査研究について、受託機関と協力大学が協働して取り組む。

- ・ 人文社会分野、理数分野、情報分野の評価手法
- ・ 面接や書類審査等教科・科目によらない評価手法

高等学校教育改革

高等学校基礎学力テスト(仮称)の導入検討等

## ● 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」フィージビリティ検証事業:1.4億円【拡充】

平成32年度から実施する「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」について、十分な「知識・技能」の習得に加え、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価するためのモデル問題の作成のほか、記述式やCBTの導入等に向けた実証的な検討

## ● 高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための研究開発事業:1.1億円【拡充】

「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の導入に向けて、学習指導体制や教材開発等とともに生徒の基礎学力の定着度等を把握して指導改善に活かすためのテスト手法等に関する研究開発

※ 上記のほか、各大学の入学者選抜改革等の取組を支援(国立大学法人運営費交付金:20億円、私学助成(私立大学等改革総合支援事業):10億円)

- 国立大学では、第三期中期目標期間に開始・実行する取組として、「優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入れ環境の整備」を掲げている。

## 「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」

(平成27年9月14日：一般社団法人国立大学協会) (抜粋)

### ポイント1：優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入環境の整備

- 確かな学力とともに多様な資質を持った高等学校・高等専門学校卒業者を受け入れる。  
(例) 大学は、多面的・総合的な評価を含み、個々の大学のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに沿って学修をすすめることができる者を選抜できるように入試改革を推進するとともに、推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の導入を拡大する。

## 【国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン 工程表】

【ポイント1】  
優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入環境の整備

確かな学力とともに多様な資質を持った高等学校・高等専門学校卒業者を受け入れる。

個々の大学のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの確認、整備 (※～28年度)

高大接続改革を先導する大学教育改革：  
教養課程を含む入試改革後のためのカリキュラム整備 (人社系を最大限に活用しつつ) (※～平成30年度)

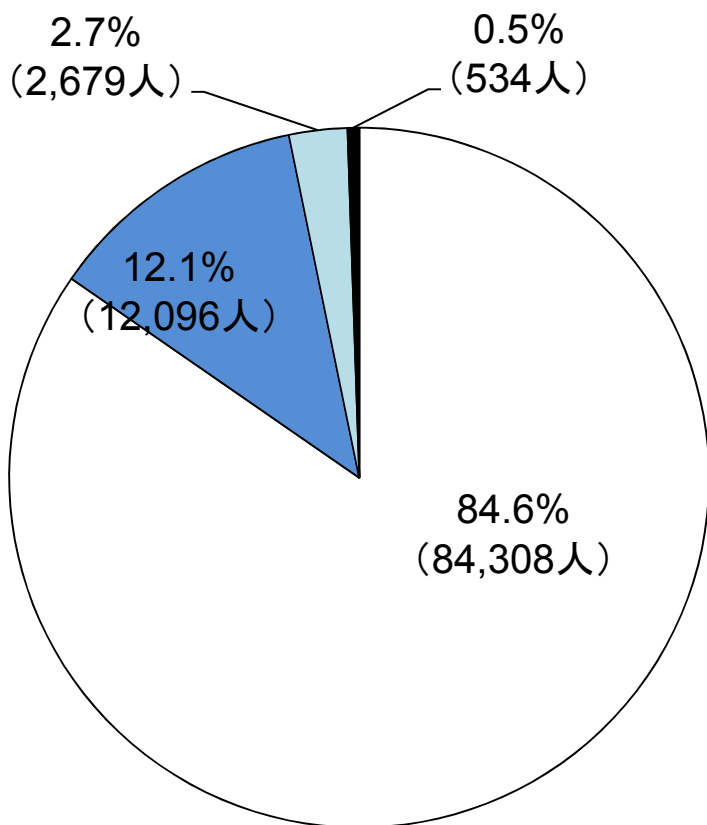
入試改革：  
推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の拡大 (入学定員の30%を目標) 個別入試における面接、調査書の活用等 (準備から実施へ) (※～平成33年度)



国公立大学では一般選抜が中心

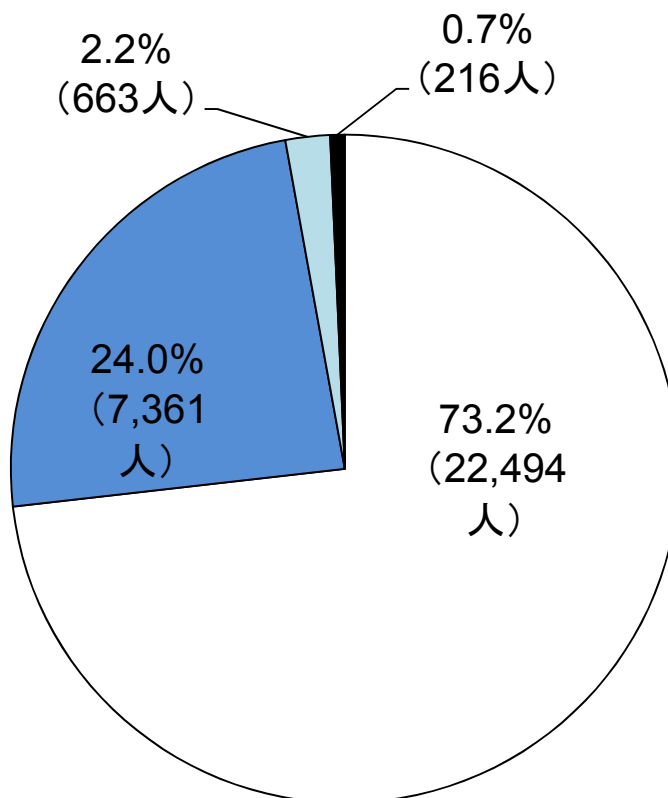
私立では約半数がAO入試、推薦入試を経由して入学している

【国立大学】



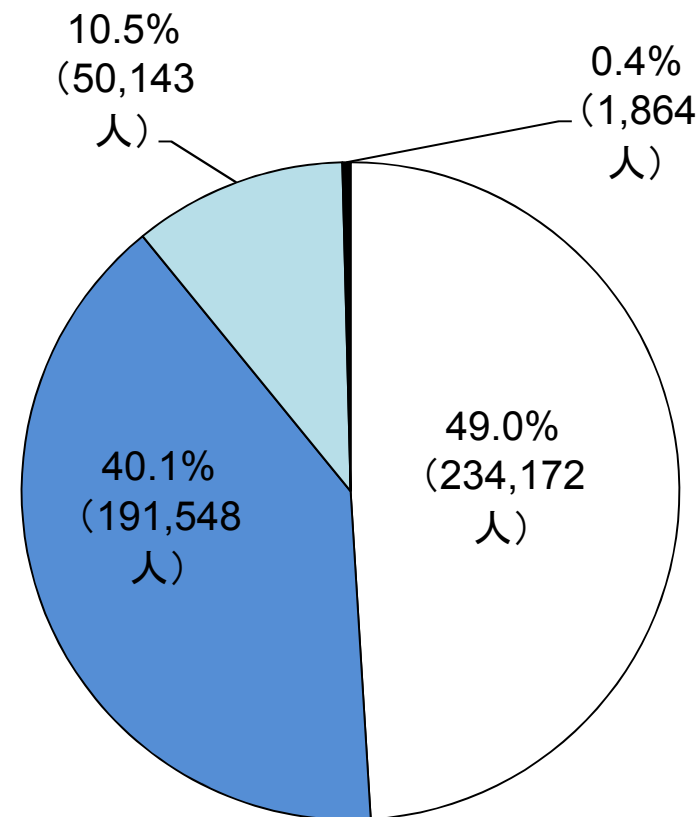
（入学者計：99,617人）

【公立大学】



（入学者計：30,734人）

【私立大学】



（入学者計：477,727人）

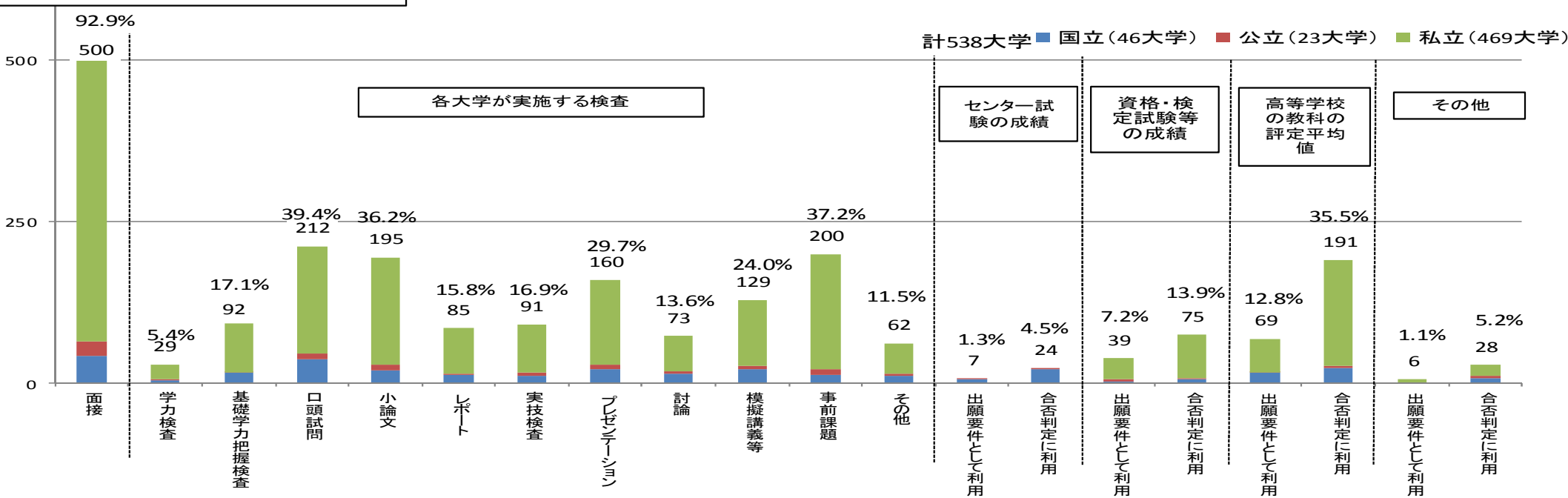
□ 一般入試    ■ 推薦入試    □ アドミッション・オフィス入試    ■ その他

# AO入試の実施状況について（平成26年度入試）

AO入試：詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学修に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法。

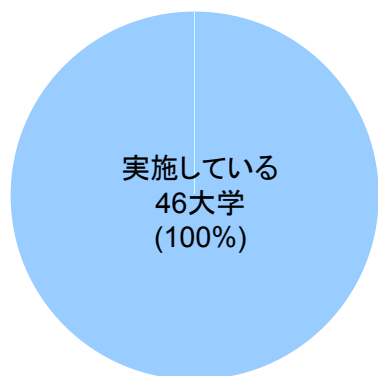
AO入試の選抜方法について(大学数)

Q. AO入試で実施している選抜方法について

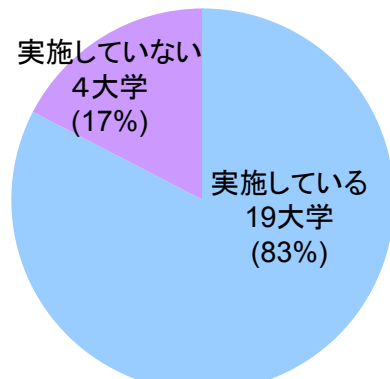


学力把握措置の実施(大学数)

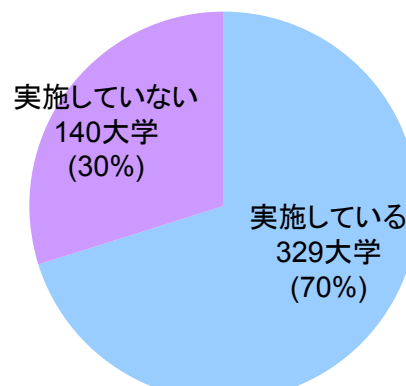
Q. 上記の選抜方法(「面接」以外)のうち、いずれかで学力把握措置を実施しているか。



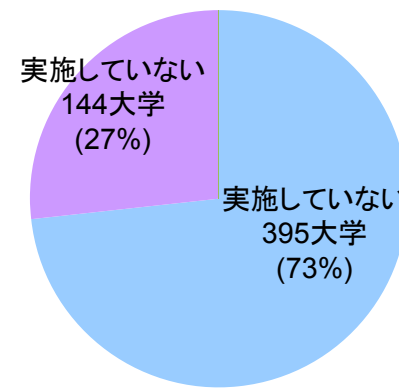
国立大学



公立大学



私立大学



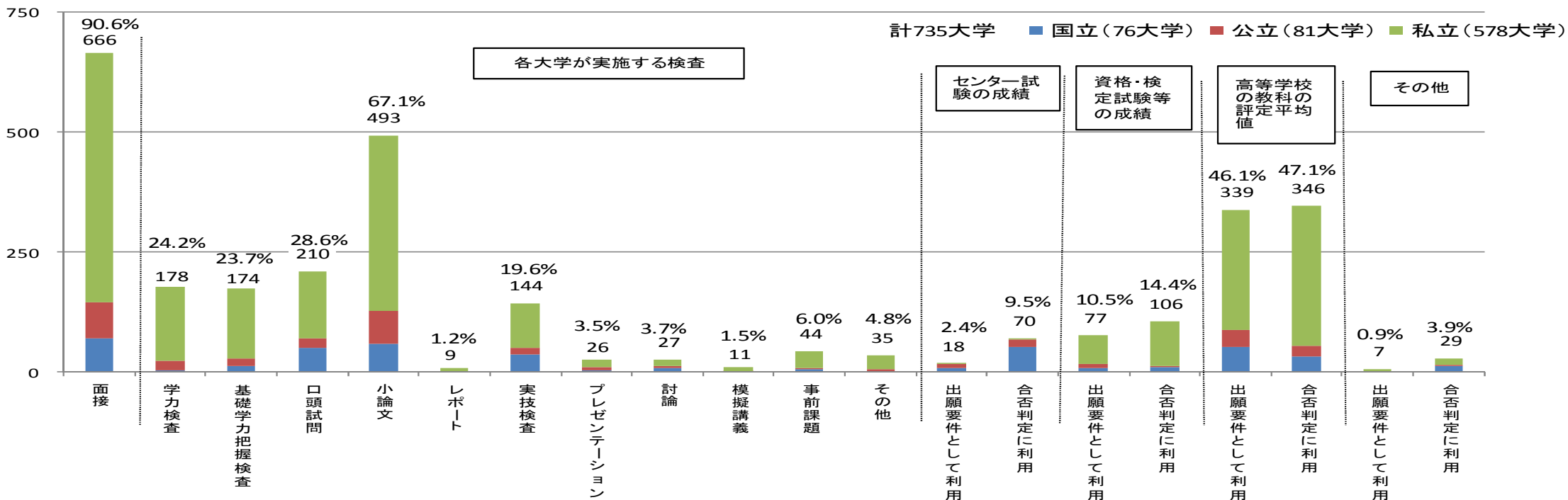
計

# 推薦入試の実施状況について（平成26年度入試）

推薦入試：出身高等学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定する入試方法。

推薦入試の選抜方法について(大学数)

Q. 推薦入試で実施している選抜方法について



学力把握措置の実施(大学数)

Q. 上記の選抜方法(「面接」以外)のうち、いずれかで学力把握措置を実施しているか

